

1. 学校の教育目標

本校は栄養士養成専門学校として、恒に社会で求められている栄養士を養成することを目的としております。そのために専門学校卒業生として即戦力として働ける技術、知識の修得を目指します。また常に人から信頼される栄養士となるべく人間教育や・コミュニケーション能力向上にも取り組むための授業も取り入れています。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- ・基礎学力不足の生徒へのフォロー
- ・社会適応力・対人対応力の強化の為の特別講習の実施。
- ・生徒の退学者数を減らす（適応障害やメンタル的に弱い者への対応強化）。
- ・SDGsなどを学び食の分野においてもサステナブルで持続可能な食生活を考える。
- ・主体的に学べる学習環境をすべての教科で引き続き検討する。
- ・リカレント対象者（一般社会経験者）の増加によるキャリアアドバイス指導強化

3. 評価項目の達成及び取組状況

（1）教育理念・目標

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか （専門分野の特性が明確になっているか）	④	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	③	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

① 課題

- ・学校の将来構想の具体案は示していないが、栄養士の社会的ニーズや最新の食や栄養情報を常に意識した柔軟な教育を行っていく。
- ・適応障害の生徒の割合が増加しているが、正しく対応できる知識経験のある教員が不足している。
- ・将来合格を目指す「管理栄養士試験」が専門的知識記憶を求める内容のため、まだ知識暗記型の授業が全体の多くを占めている。
- ・学習の総合成果と判断している「栄養士認定試験」における個人毎の評価の向上。

② 今後の改善方策

- ・ 修得済知識を基に課題解決能力をつけることのできる実践形式の授業を増やす。
- ・ 問題のある生徒のカウンセリング能力アップのための研修を増やす。
- ・ 栄養士実力認定試験対策授業の強化。
- ・ グループワークを多く取り入れることによりコミュニケーション能力向上および問題解決能力の向上を目指す。

③ 特記事項

- ・ 少子化による入学生減を留学生募集で改善できるかリスクも含めて検討中。

(2) 学校運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・ 目的に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・ 運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
・ 人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
・ 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

- ・ 人事・給与に関しては昨今の求人難と若年層の給与増の対応が喫緊に必要。

② 今後の改善方策

- ・ 成績管理システムから各種証明書発行や出席管理までの総合的なシステム化改善中。
- ・ 出席管理もシステムに組み入れられないかを検討(出欠チェックに手間と時間がかかるため)

③ 特記事項

- ・ 5年前より成績を含む生徒管理&生徒募集システムを導入済。
- ・ 高等教育就学支援制度の申請のために作成した新たな情報を公開することで今まで以上の総合的な広い情報公開ができるようになった。

(3) 教育運営

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
・教育理念・育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
・関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
・授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	③	2	1
・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	③	2	1
・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組がおこなわれているか	4	③	2	1
・職員の能力開発のための研修等がおこなわれているか	4	③	2	1

① 課題

- ・栄養士養成課程として、厚生労働省より認可を受けていることにより、指定される必修科目以外で実践的なカリキュラムを組んでいるが体系的に組む時間的余裕があまりない。
- ・働き方改革の推進で教員向けの研修時間が割けにくくなった。

② 今後の改善方策

- ・ホームルーム等の時間に業界等で働く方を特別講師として迎え入れ、生徒・教員共現場でのマネジメント等の講義、実習を行う。

③ 特記事項

- ・就職のための企業の会社説明会を校内で実施する機会が多くなったので、企業の担当者から業界の話や求める人材像を話してもらえるようになった。

(4) 学修成果

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・就職率の向上が図られているか	4	③	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在学生の社会的な活動及び評価を把握しているか	4	3	②	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	3	②	1

① 課題

- ・卒業生の社会的な活動を調査・評価する情報を把握するツールが存在しない。
- ・卒業生の現状調査ができていない。
- ・退学率を低減させるための施策は行っているが、退学率減少効果が期待通りにでない。

② 今後の改善方策

- ・まず卒業生・在校生から社会適的な活動が報告できるシステム構築を考える。
- ・メンタル面での退学者が増加しているため、教員のカウンセリング力の強化を検討。

③ 特記事項

- ・学園祭に卒業生の来校を積極手に促し、現状報告等をしてもらうことにより一定数の卒業生の活動状況を把握できるようになったがまだ一部である。

(5) 学生支援

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理の担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	3	②	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
・保護者と適切に連携しているか	4	③	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	3	②	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④	3	2	1

① 課題

- ・授業修了後、Wスクールやアルバイト等で課外活動ができる学生が少なく、クラブ等が作りにくい（作っても長続きしない）が各種イベントや催しの案内を学生がよくわかる場所に掲示や持ち帰りできるように工夫している。

- ・卒業生を支援できる体制が少ない(調査をするがほとんど把握できないことが多い)。

② 今後の改善方策

- ・課外活動の奨励&補助の検討。
- ・ホームページ・SNS等を活用した卒業生への情報発信。

③ 特記事項

- ・保護者の収入が著しく減少して学費の支払いが困難になった場合は「緊急就学支援制度」でサポートできる制度がある
- ・保護者には年に数回「学校(授業)見学会」を実施している。また年に1回保護者を交えての「三者懇談会」を実施している。

(6) 教育環境

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

① 課題

年に2回に防災訓練を行っているが、生徒に浸透しているか不明。

② 今後の改善方策

消防署等専門家の講習会開催の検討

③ 特記事項

東南海大地震に備えての津波等防災計画が必要か。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	⑤	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 少子化の影響により、生徒が減少する中、生徒取り込みのためＡＯ入試等多様な入試方法での出願ができるようになったが、その分高校の進路指導時に出席者や進路担当教員が混乱する状態が一部ある。
- ・ 高等教育の奨学金が充実されたことにより、金銭的な理由でいままでは専門学校に来ていた層の生徒が４年制大学を指向する傾向が強まった。
- ・ エネルギー＆物価高騰と人件費の上昇に伴い収益低下により学費値上げを次年度より実施。
- ・ 18歳人口の減少が著しい状態で高校新卒者の入学生確保が難しくなっており、新たに留学生やリカレントの受け入れが検討されている。

② 今後の改善方策

- ・ 新しい募集方法の検討。
- ・ リカレント対象になる社会人が入学しやすい教育体制を整える。

③ 特記事項

- ・ 国の「教育訓練給付金制度」等を活用した社会人入学生が増えてきている。

(8) 財務

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	4	③	2	1
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

① 課題

- ・ 顧問税理士による会計監査を実施しているが第三者による会計監査が行われていない。
- ・ 近年、法人として新校舎を建て続けに２棟建設した影響で総合的に赤字になっている。
- ・ 少子化の影響をもろに受けており高校新卒入学者が減少の影響で収入が減少しているので、今後は留学生やリカレント社会人募集にも力を入れて募集をする

② 今後の改善方策

- ・ 会計監査方法の検討。

③ 特記事項

- ・ 学校法人自体は現在無借金経営を続けており、近々で財務に問題は起こりえない

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	③	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

- ・昨年度の自己評価による改善が完全ではない部分が見受けられる。また職員室内での個人情報管理ができていない部分がある。

② 今後の改善方策

- ・改善が達成できるように問題点を明確化する。
- ・個人情報保護は教職員全員が意識しているがその方策が明確に提示できていない。

③ 特記事項

- ・6年前より「自己評価」「学校関係者評価」は作成＆公開済み。
- ・「第三者評価」が未作成だが国の方針で近いうちに義務化される予定。
- ・令和4年秋に「厚生労働省近畿厚生局」による現地指導監査を受けて法令違反は認められないと報告を受けた。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

① 課題

地域の対する公開講座・教育訓練は時間的な制約や教育現場の労働環境等で問題があり、いままで積極的に行われていなかったが、各種団体への講習会実施や会場貸し出し等を行うようになった。

② 今後の改善方策

通常の授業に無理のない公開講座等の検討。

③ 特記事項

- ・ 姫路市農政課・兵庫県栄養士会とのコラボによる事業が学園全体で拡大している。
- ・ 地域の老人介護施設のイベントに学生がボランティアで参加している。